設楽発掘通信

No.83
令和５年
11月号

根道外遺跡の地元説明会を開催します

設楽町の山や街道の樹々を鮮やかに飾っていた紅葉も見ごろを過ぎ、霜枯れの季節となりました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

さて、十一月上旬に下延坂遺跡の発掘調査を終えることができました。下延坂遺跡では中世～近世の水田跡や縄文時代中期～後期の土器片と竪穴建物跡の遺構、石鏃や石匙、黒曜石などが出土しています。詳しい下延坂遺跡の調査成果を本紙二・三ページで解説させていただきました。お読みいただければと思います。

下延坂遺跡の発掘調査が完了したことで、川向地区の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、万瀬遺跡、下延坂遺跡の三遺跡の調査を終えることができました。これも皆さまのご理解とご協力あってこそだと思います。残すは八橋地区の根道外遺跡、一遺跡のみとなりました。

現在は根道外遺跡の発掘調査が進んでいます。根道外遺跡は、十月まで調査をしておりました下延坂遺跡から約一キロメートル北東にあります。川向地区では道路直下の調査が主でしたが、根道外遺跡は山腹に現れた平坦地の調査となります。調査地の西でタコウズ川が南流する左岸に良好な平坦地が見られることから、縄文時代を始めとする遺物や遺構が期待される場所でもあります。つきましては、**十二月十六日（土）に根道外遺跡の地元説明会を開催することになりました。**下図にてご案内をさせていただきます。発掘担当者が寒さを吹き飛ばす熱い解説をいたします。多くの皆さまのお越しをお待ちしております。

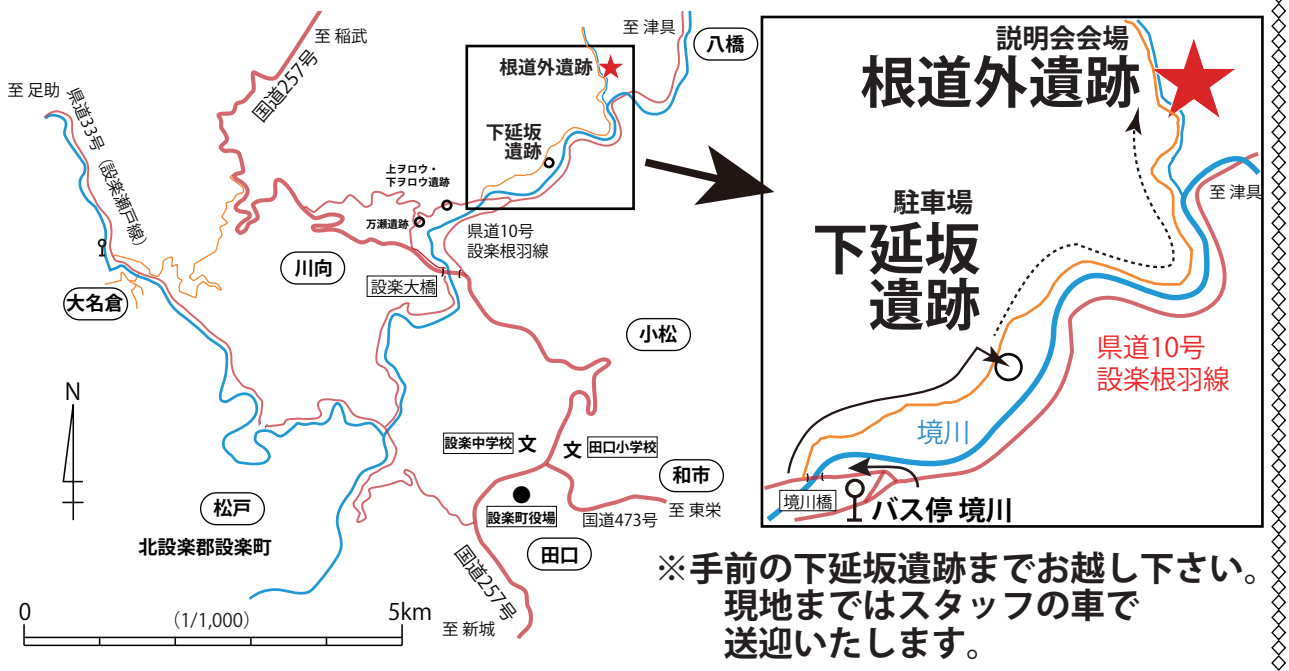
（鬼頭剛）

根道外遺跡 地元説明会 会場のご案内

12月16日（土）午前11時～12時、遺跡現地で遺跡の説明と遺物の展示を行います。

駐車場所が限られておりますので、ご参加の方々は乗り合わせてご来場いただけると幸いです。

※開催の詳細・お問い合わせは愛知県埋蔵文化財センター調査課（電話 0567-67-4163）、鬼頭携帯（080-1571-4986）まで。



**※手前の下延坂遺跡までお越し下さい。
現地まではスタッフの車で
送迎いたします。**

下延坂遺跡の発掘調査

11月上旬に今年度の下延坂遺跡の発掘調査が無事終了しました。今年度は五つの調査区に分けて調査が進められ、前号の設楽発掘通信№82ではAa区、Ab区、Ba区、Bb区の調査結果についてご紹介しました。ここではAc区の調査結果の概要についてご紹介していきます。

まず、Ac区では道路造成土の下に近世以降の水田跡が確認されました（図1）。また、この水田跡の下にも中世から近世頃のものと思われる水田跡が見つかっており、畦畔を形成する際に基礎として用いられたと考えられる礫の集石も確認されました（図2）。そして、これら耕作層の下には竪穴建物跡を中心とする縄文時代の遺構が良好な状態で残っていました（図3）。

竪穴建物跡の中からは多くの土器片や石器が出土しました。土器は縄文時代中期後半のものが多く、石器は石匙や石錘等、様々な遺物が出土しました（図4）。また、調査区の北側に位置する8092SXでは竪穴建物の入口に埋められる埋甕の底部が見つかっており、耕作の影響で遺構は滅失していましたが、埋甕が出土した位置より上層に竪穴建物が一棟存在していたこと考えられます（図5）。

（荒木徳人）

図1　Ac区の水田跡（近世以降）【北より】

図2　Ac区の水田跡（戦国期から近世）【北より】

図4　切目石錘

図5　8092SXで出土した埋甕の底部

図3　竪穴建物跡を中心とした縄文時代の遺構群【北より】

図6は、Ac区の土層断面写真です。縄文時代早期後半（今から約七千年前）からの堆積を連続してみることができます。縄文時代早期後半の堆積層の上に山側からの土石流堆積層が覆い、その後縄文時代中期後半（今から五千年前）を中心に集落が営まれました。さらにその後も集落跡などになっていたようですが、戦国時代以降、一帯は耕作地になっていたようです。

（川添和暁）

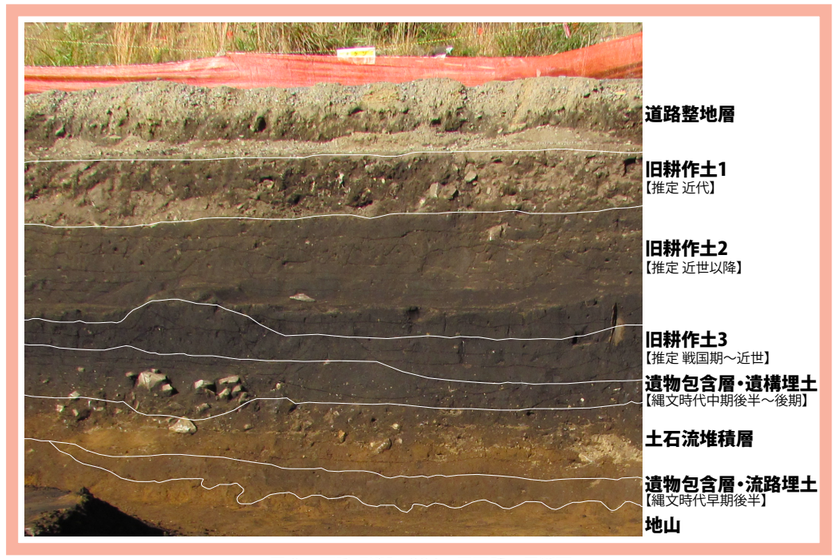


図6　下延坂遺跡 23Ac区西壁土層断面

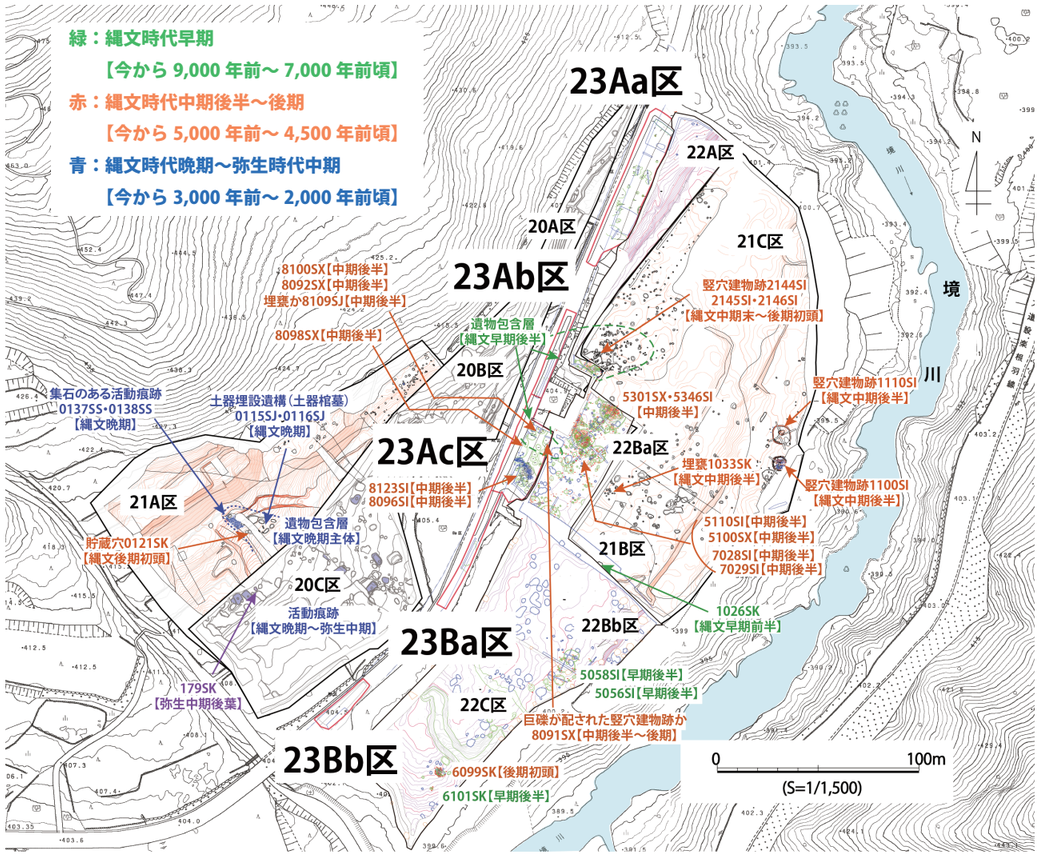


図7　下延坂遺跡 調査成果全体図

大畑遺跡の報告書作成を行っています

二〇十七年度、二〇二二年度に発掘調査を行った大畑遺跡（設楽町川向字大畑）の報告書を今年度作成中です。今回は整理作業の途中経過も踏まえた、大畑遺跡の概要を紹介します。

大畑遺跡は境川の右岸丘陵上に立地しています。設楽大橋を稲武方面に向かって渡った左側の丘陵の頂上周辺が大畑遺跡の範囲になっています。大畑遺跡の北側には笹平遺跡、南側には川向東貝津遺跡、西側には大栗遺跡と、周囲にはすでに報告書が刊行された遺跡が並びます。また二〇一七年度と二〇二二年度の空撮写真（図8・9）を比較すると、工事の進捗により周辺の景観が大きく変化していることもわかります。

さて、大畑遺跡は合計で一万六千三十㎡を調査しました。調査範囲（図10）の中央には南北に黒色土の堆積した谷状のくぼ地が伸び、東西両側に丘陵の尾根がそびえる地形です。調査の結果、この範囲内に縄文時代の竪穴建物跡十五棟以上、陥し穴九基等が検出されました。竪穴建物跡は西側の丘陵頂部付近と、谷状地形の突き当たりの谷頭部分に多く分布していることがわかりました。東側の丘陵頂部付近は水没範囲から外れるため、多くが調査範囲外となっていますが、丘陵先端部には縄文時代中期の竪穴建物跡が存在し、その後背部の斜面にも遺物が多く出土した、竪穴建物跡の可能性が高い遺構が分布しています。

図8　大畑遺跡 2017 年度調査時の様子（南西より）

図9　大畑遺跡 2022 年度調査時の様子（南西より）

谷状地形の中では、石器の磨石敲石類（すりいしたたきいしるい）がまとまって出土したこともあり、水辺で作業を行っていたようです。谷に近い竪穴建物跡には縄文時代前期まで遡る420SX等も検出され、丘陵頂部に多い縄文時代中期の竪穴建物跡とは異なった様子を見せています。

（鈴木恵介（すずきけいすけ））

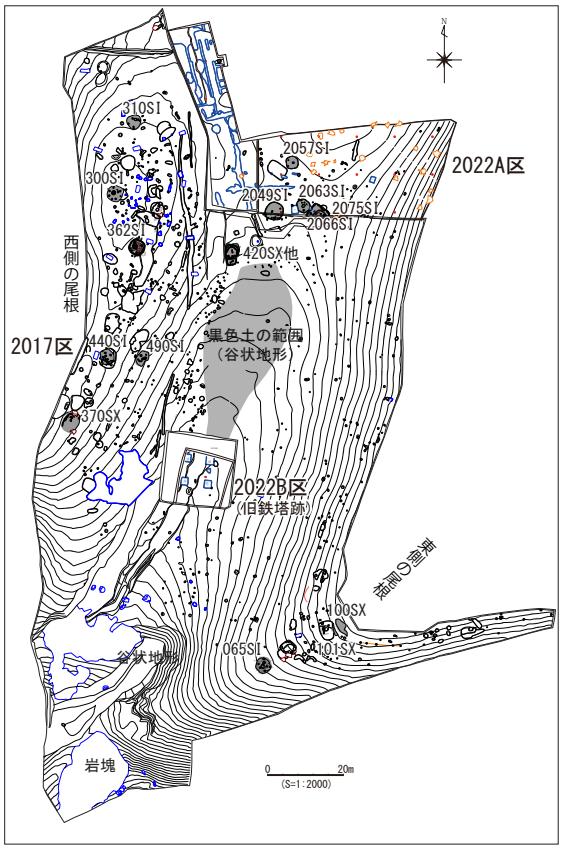


図10　大畑遺跡調査区平面図 (S=1/2000)

設楽発掘通信
No.83
令和5年11月号
編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ケ須町野方802の24
電話 （0567）67-4161【管理課】4163【調査課】
ホームページ http://www.maibun.com
Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter https://twitter.com/aichi_maibun
印刷・協力 株式会社 二友組